



タイ・バンコクのショッピングモールで「クリスマスツリー」を見る時期になった。例年よりお披露目が遅れたが、これも新型コロナウイルス感染症防止対策によるものであろう。今年も残りわずかとなり、2021年を十大ニュースの形でランキングし、振り返ってみる。

1位は観光立国タイの開国。20年3月以降、観光客が消え、タイ経済に大きなダメージを与えてきた「コロナ感染」であるが、11月1日からワクチン接種証明の提示や5万米ドル以上の医療保険加入を条件に、隔離なしでの入国が可能となった。制限緩和による観光やビジネス目的の渡航の再開は、最も印象的なニュースとなった。2位もコロナ関連。8月、保健局が

コロナ関連が1、2位に

タイ駐在 今年の十大ニュース



筆者が選んだタイの2021年の十大ニュース

一日2万3千人以上の新規感染者数が確認されたと発表。バンコクのスポーツ競技会場やコンベンションホールが臨時の診療施設となり、恐れていた医療崩壊を目の当たりにした。

3位はタイ北部のバンコク近県での洪水。10年前の大洪水と比べれば規模は小さいが、タイを縦断するチャオプラヤ川の治水対策の遅れから、バンコクをはじめ多くの地域が冠水の被害を受けた。4位は年明け早々の日系大手デパートの撤退と、大手すしチェーン店やホームセンターの進出。高級志向だけではタイではモノが売れない。今後、タイ人の好みや地域性を踏まえたビジネス展開が、日系企業に求められるのではないだろうか。

5位は反政府デモ。コロナ感染が拡大するにつれて、抗議活動は民主派や若年層が加わり過激化した。警官隊は催涙弾や

ゴム弾などを使い、双方にけが人も出た。6位はタイ国内の二つの空港を結ぶ高架鉄道レッドラインの開通。観光客や通勤客を乗せた日本製車両が、バンコクの街を走る日が近づいている。7位は隣国ミャンマーのクーデター。軍事統治下のミャンマーから逃れ、タイに不法入国する難民が後を絶たない。タイ政府が近隣諸国と連携し、ミャンマー情勢の改善に向けた努力に期待したい。

丑(うし)年は「発展の前触れ(芽が出る)」になる年と言われ、その通りに「芽」が出た。22年の干支(えと)である「壬寅(みずのえとら)」は、「陽気を孕(はら)み、春の胎動を助く」と言われている。冬が厳しいほど春の芽吹きは生命力にあふれ、華々しく生まれることを表している。観光客でにぎわう都市の復活や、海外投資の再開が期待できる新年を迎えたい。(岐阜信用金庫バンコク駐在員事務所 高橋英孝)